

## 意味了解的アプローチについて

ワークセンター豊新

加藤啓一郎

私共は2年前の発達講座から、意味了解的アプローチと言う方法を提唱しています。このアプローチはお互いに関係しあういくつかの視点から成り立っています。

まず一つ目は本人主体という視点です。問題行動を含め社会生活の中で出てくる様々な問題を、本人の立場に立って共に考え、解決していくことによって、障がい者本人が生き生きと生活していけるように支援します。

二つ目は信頼関係の形成です。こういった支援をしていく上で、本人との信頼関係を形成していくことが必要不可欠で、本人が安心できる関係、又その関係をベースにして支えられ、学んでいける関係を構築していきます。

三つ目は意味の了解で、問題行動を含め本人の分かりにくい表現の意味を了解し、対応していくことによって、問題を解決していきます。このことが、本人主体の支援につながり、又、信頼関係の形成をより強固なものにします。

四つ目は関係支援、即ち家族支援と地域支援です。本人が家庭で落ち着いて暮らしていけるためには、家族支援が非常に大切です。我々職員は本人とご家族との媒介役になって、関係がスムーズにいくよう働きかけます。これを関係支援と呼びます。このことは地域の人たちとの関係についても同様で、地域で障害者本人の価値が認められ、それが本人の自信につながっていくよう地域の人たちと本人との媒介役になるよう支援していきます。

五つ目は相互主体という視点ですが、障がい者本人も我々支援者も同様に一回限りのかけがえのない命を生きる存在であるからこそ、そういう主体として、本人のしんどさ、苦しみ、悲しみを同じ立場で理解することができる、ということです。本人主体の支援ができるのは、私たち支援者も同じかけがえのない主体として本人のことを考えるからなのです。

そして、障がい者本人も支援者も主体と言うことは、地域に住む一人一人の人間を主体として尊重できる地域社会を作っていくという地域支援につながっていきます。岡村重夫先生のおっしゃる多元主義的社会の成立を目指し、地域へ働きかけていくことが地域支援の方向性として出てきます。

本人主体、信頼関係の形成、意味の了解、関係支援、相互主体、多元主義的社会の実現 こういった関連しあう視点を含めて「意味了解的アプローチ」と呼んできました。これらのアプローチは何十年に涉って社会福祉と心理が共働で実践を進めていった結果だと思っていますが、そこに医療が加わり、本人主体と言う立場から福祉、心理、医療の連携を模索していった実践の経過がこの10年であったように思います。

